

公益社団法人 中央畜産会 御中

# 令和5年度 馬獣医療実態調査

## 【報告書】

令和6年2月20日

調査概要	P2
------	----

Summary	P4
---------	----

<調査結果詳細>

1.飼育馬の施設等の概要	P8
--------------	----

2.記録の作成及び管理の遵守状況	P15
------------------	-----

3.車両への消毒・靴への消毒	P18
----------------	-----

4.マニュアル作成・周知徹底	P21
----------------	-----

5.飼育馬の感染症予防対策の状況	P24
------------------	-----

6.ワクチン接種状況と講習会に期待すること	P27
-----------------------	-----

7. 2016年度～2023年度 頭数・用途・導入元・年齢把握	P32
---------------------------------	-----

---

# I .調査概要

# 調査概要

調査目的	<p>我が国の馬は、多様な形態で飼育されている。</p> <p>しかし、馬インフルエンザ等の伝染病は、馬の種類に関係なく共通して感染することから、本会では馬感染症の予防対策の一環として、「馬インフルエンザワクチン接種費の一部助成」「馬飼養衛生管理技術等の講習会の開催」や「馬の健康手帳の無償配布」を実施し、馬飼育者の飼養衛生管理を向上させたいと考えている。</p> <p>今回、これら予防対策をより効果的なものとするため、馬獣医療実態調査を実施する。</p>
調査手法	<p>郵送調査 (各都道府県、畜産団体等を通じて、対象者に協力依頼文書及びアンケートに協力を願い調査を行う)</p>
対象者条件	全国の馬飼育管理者
回収数	馬飼育管理者：921サンプル
調査期間	2023年11月～12月
備考	※報告書スコア n=30未満は参考値として、グレーハッチング

---

## II .Summary

# Summary① 馬の飼養衛生管理基準の遵守状況

	一部またはすべてやっていない	理由
記録の作成及び管理	54.4%	1位:個人で飼養しているから(43.5%) 2位:人手が足りないから(23.0%) 3位:やらないといけないと分かっているが、忘れてしまうから(16.4%)  育成牧場や乗馬クラブでは「人手が足りない」が最も高い。
車両への消毒・靴への消毒	49.2%	1位:個人で飼養しているから(43.0%) 2位:人手が足りないから(19.4%) 3位:必要だと思うが準備のための費用がかかってしまうから(16.8%)  育成牧場や乗馬クラブでは「人手が足りない」が最も高い。
マニュアルの作成・周知徹底	46.3%	1位:個人で飼養しているから(49.5%) 2位:口頭で充分だから(22.1%) 3位:マニュアルの作り方が分からない・自信なし(21.6%)  育成牧場や乗馬クラブでは「口頭で充分」が最も高い。



各項目について、「一部またはすべてやっていない」は46%～54%で遵守率は低くとどまる。  
理由をみると、「個人で飼養している」という意識が遵守へのネックとなっているため、  
個人で飼養していても守るべき事項の啓蒙が必要と考える。  
また、育成牧場や乗馬クラブでは「人手不足」が遵守に影響しているため、  
人を介さなくても実行できる仕組みが必要と考えられる。

## Summary② 感染症予防対策・ワクチン接種の状況

### ■ 感染症予防の対策方法は？

- ・日常・・・9割以上が「馬房にいるときの馬の様子」「餌を与えた際の食欲等」を観察
- ・異常時・・・9割弱が「すぐに診療獣医師に相談」

### ■ ワクチン等の予防管理の状況は？

- ・一部の馬にのみ接種も含めると**7割強がワクチンを接種**

「ワクチン接種を全頭実施している」方は6割弱

### ■ 馬インフルエンザワクチンの接種状況は？

- ・一部の馬にのみ接種や流行時のみ接種も含めると、**7割半ばが馬インフルエンザワクチンを接種**  
「ワクチン接種を全頭実施している」方は6割強。

### ■ 馬鼻肺炎ワクチンの接種状況は？

- ・一部の馬にのみ接種している方を含めても**馬鼻肺炎ワクチンの接種率は6%**

### ■ 講習会等で聴いてみたい内容は？

- ・「馬の栄養管理情報」「馬の疾病と栄養管理対策」「馬の飼養衛生管理の情報等」を  
求める声が多くみられた（前回調査でも同傾向）。

接種しない理由は、「他の馬と接触しない」「移動しない」といった回答が散見される。また、「必要性がわからない」といった回答もみられるため、「ワクチン接種がなぜ必要なのか」という点は引き続き周知が必要。

「獣医師」がいないという声もみられ、獣医師の紹介や繋がりの強化をしていくことも重要と考える。

必要と思っても「予算がない」といった回答もみられる。

---

## Ⅲ. 調査結果詳細

---

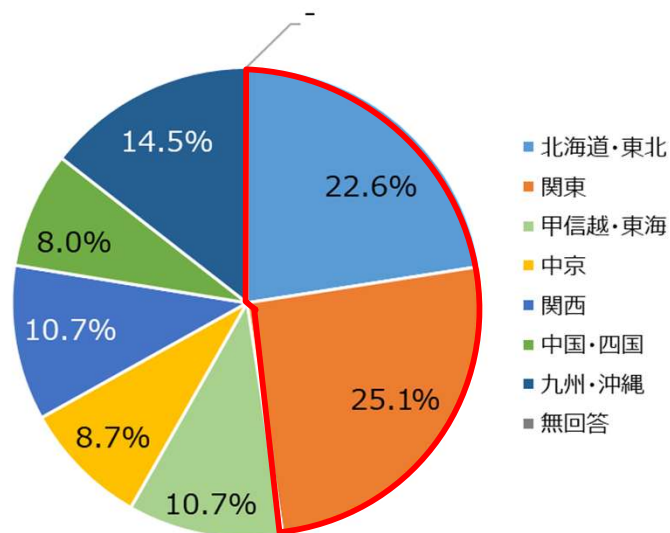
# 1. 飼育馬の施設等の概要

# 飼育馬施設の所在地／回答者の役職

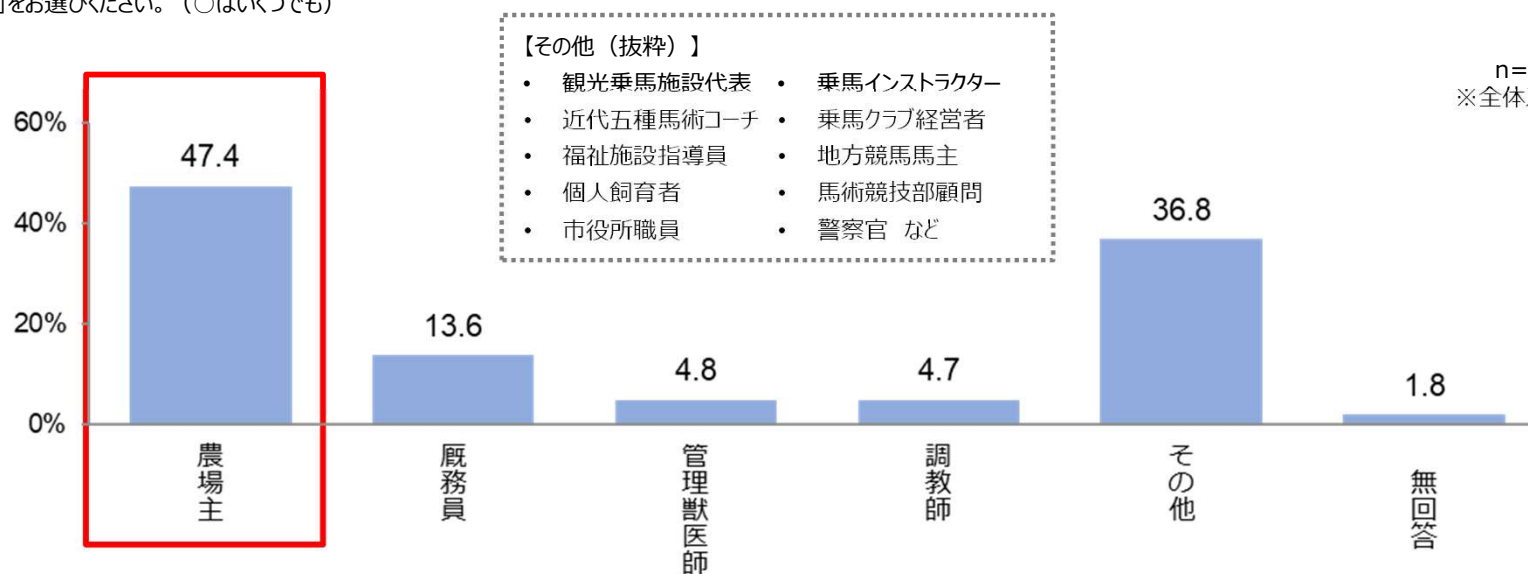
- 飼育馬施設の住所地は「関東」が25%、「北海道・東北」が23%で、この2地域で約半数を占める。
- 回答者の役職は、「農場主」が47%で約半数。

n=921 (単位：%)

F0. あなたの飼育馬施設の所在地をご記入してください。



Q1. ご回答者の「役職」をお選びください。(○はいくつでも)

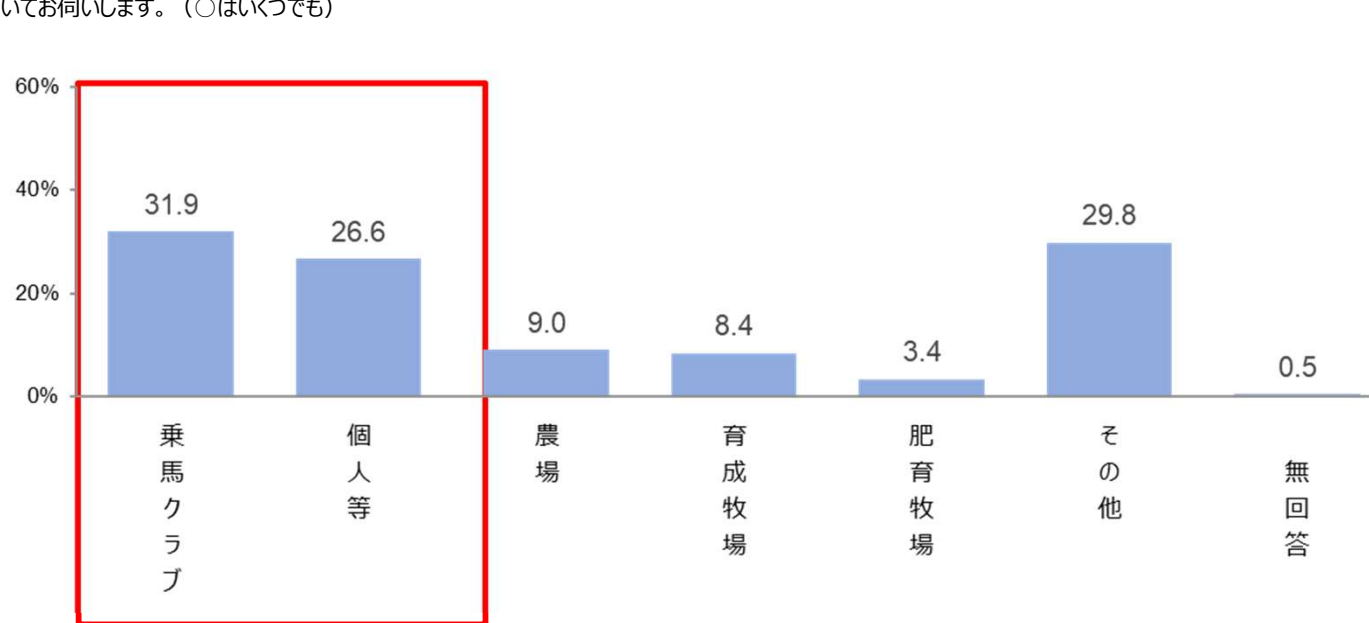


n=921 (単位：%)  
※全体スコアにて降順ソート

# 施設の種類／従業員数

- 施設の種類の「乗馬クラブ」が32%、「個人等」が27%と続き、約6割を占める。
- 施設の従業員数は、「5人未満」が64%、「5人～10人未満」が14%と約8割を占める。

Q2. 施設の種類についてお伺いします。(○はいくつでも)

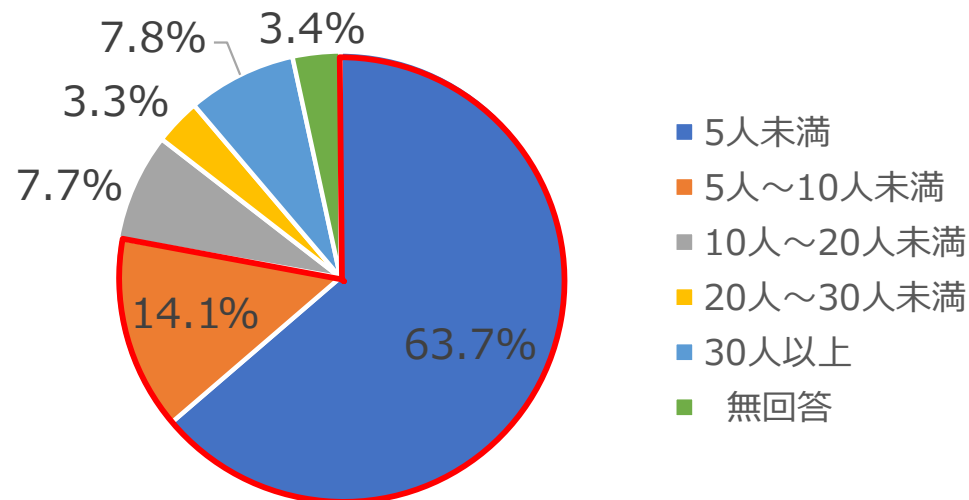


n=921 (単位: %)  
※全体スコアにて降順ソート

### 【その他 (抜粋)】

- 動物園
- 観光牧場
- 大学馬術部
- 福祉施設
- 養老牧場
- 観光施設
- 放課後等デイサービス
- 障害者施設
- 都市公園
- 保育園 など

Q3. 施設の従業員数についてお伺いします。(○はひとつ)

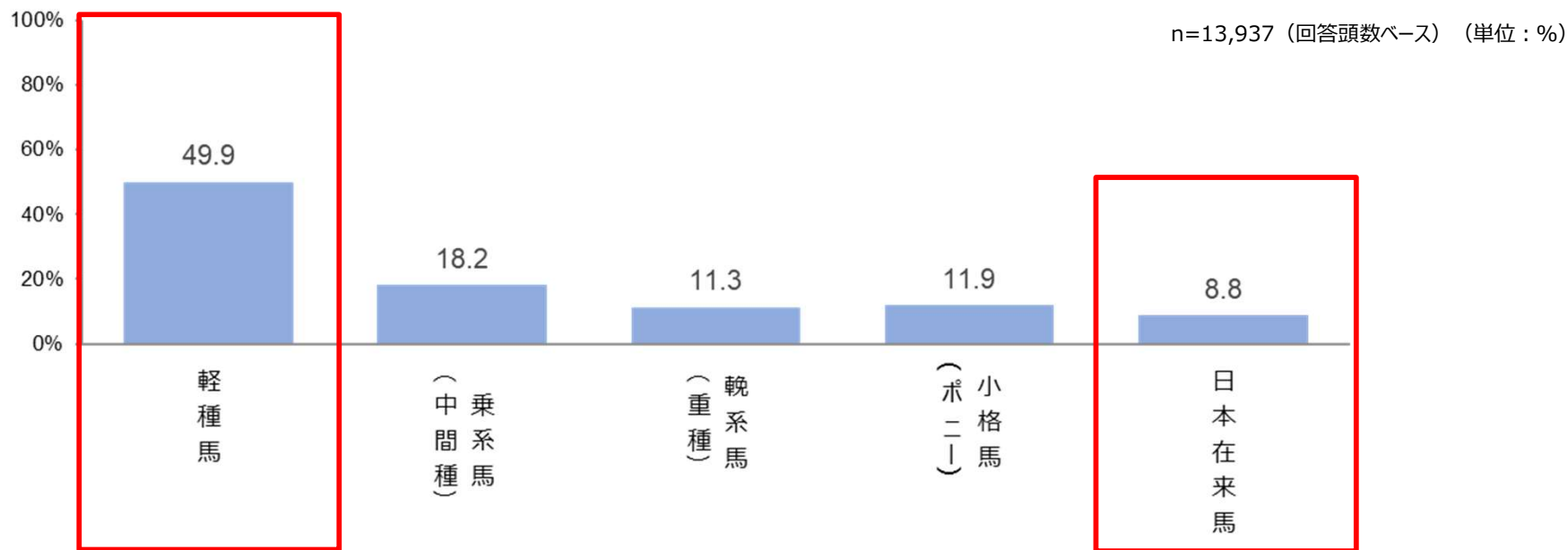


n=921 (単位: %)

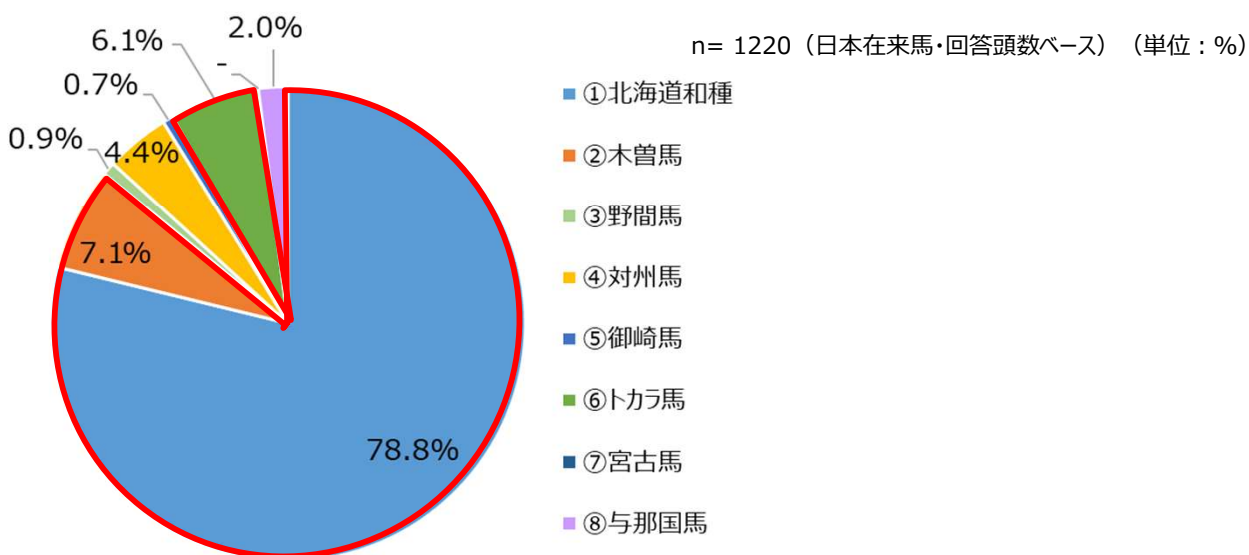
# 飼育馬の種類・日本在来馬の品種

- 飼育馬の種類は、「軽種馬」が50%で最も多い。「日本在来馬」は9%であった。
- 日本在来馬の種類では、「北海道和種」が79%で最も多く、次いで「木曽馬」が7%、「トカラ馬」が6%と続く。

Q4-1~2. 飼育馬の種類



Q4-1. 日本在来馬の品種



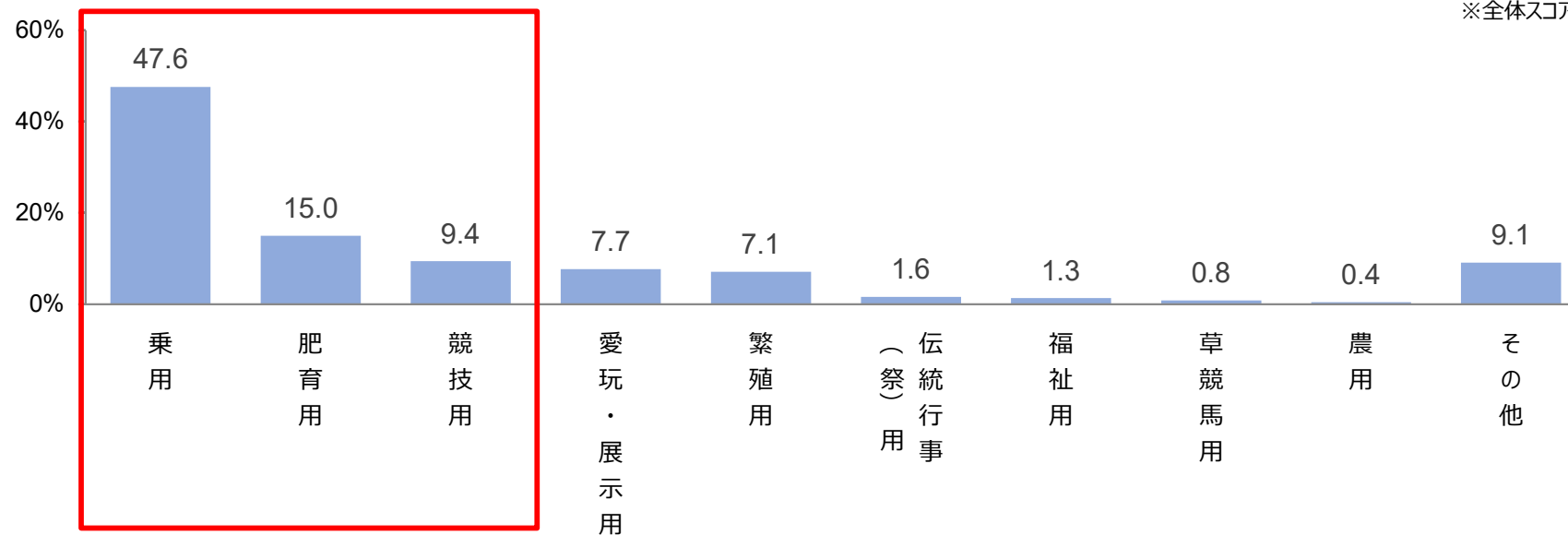
# 過去1年間の飼育馬の用途

➤ 過去1年間の飼育馬の用途は、「乗用」が48%でもっとも多く、次いで「肥育用」が15%、「競技用」が9%と続く。

Q4-3. 飼育馬の用途

n= 15090 (回答頭数ベース) (単位: %)

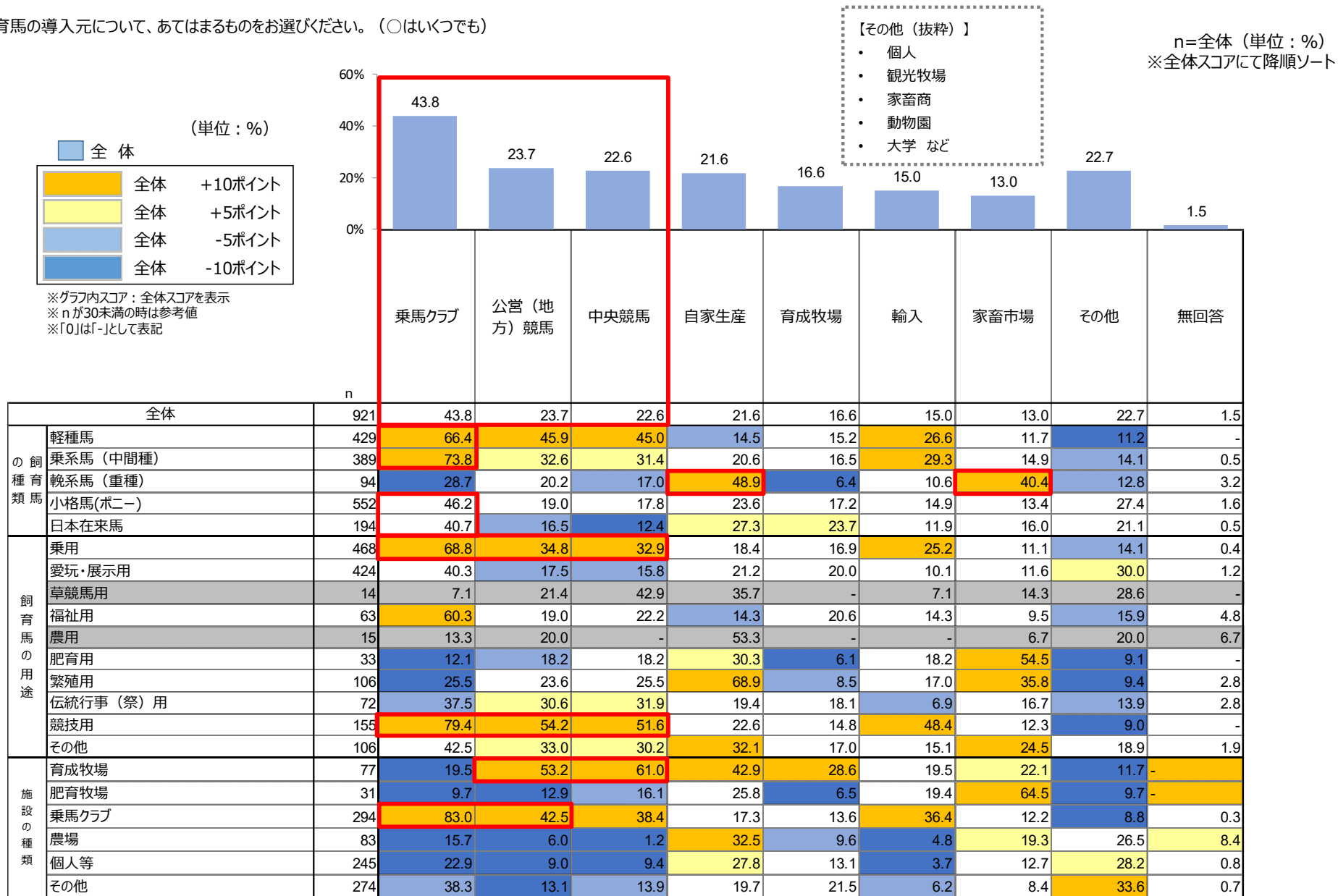
※全体スコアにて降順ソート



# 飼育馬の導入元

- 飼育馬の導入元は「乗馬クラブ」が44%で最も多い。次いで「公営（地方）競馬」が24%、「中央競馬」が23%と続く。
- 種類別でみると、ほぼすべての種類において「乗馬クラブ」がメインの導入元だが、『輓系馬（重種）』は「自家生産」「家畜市場」が主である。
- 用途別でみると、『乗用』『競技用』は「乗馬クラブ」「公営（地方）競馬」「中央競馬」からの導入が特に多い傾向。
- 施設別では、『育成牧場』は「公営（地方）競馬」「中央競馬」、『乗馬クラブ』は「乗馬クラブ」「公営（地方）競馬」からの導入が多い。

Q5. 飼育馬の導入元について、あてはまるものをお選びください。（○はいくつでも）

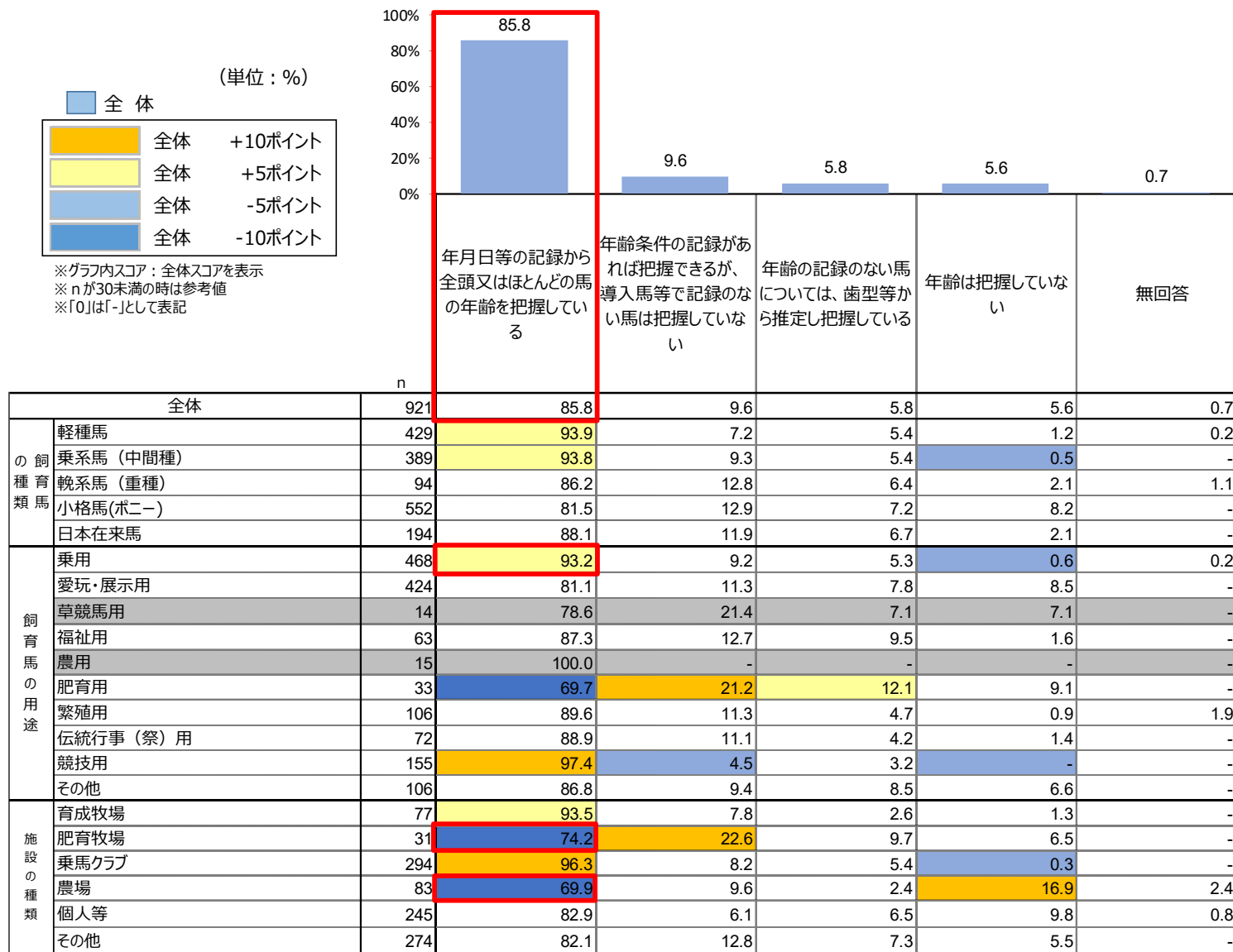


# 飼育馬の年齢把握状況

- 馬飼育管理者の大多数である86%が「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」と回答。
- 飼育の用途で最も多い『乗用』では、「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」が93%。また、『競技用』は同項目が97%とほとんど把握。
- 施設別でみると、『肥育牧場』『農場』において「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」と回答した方は全体より10pt以上低い。

Q6. あなたの飼育馬の年齢の把握について、あてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）

n=全体（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



## 2.記録の作成及び管理の遵守状況

### ■ 以下を提示して遵守有無を聴取

#### [記録の作成及び管理]

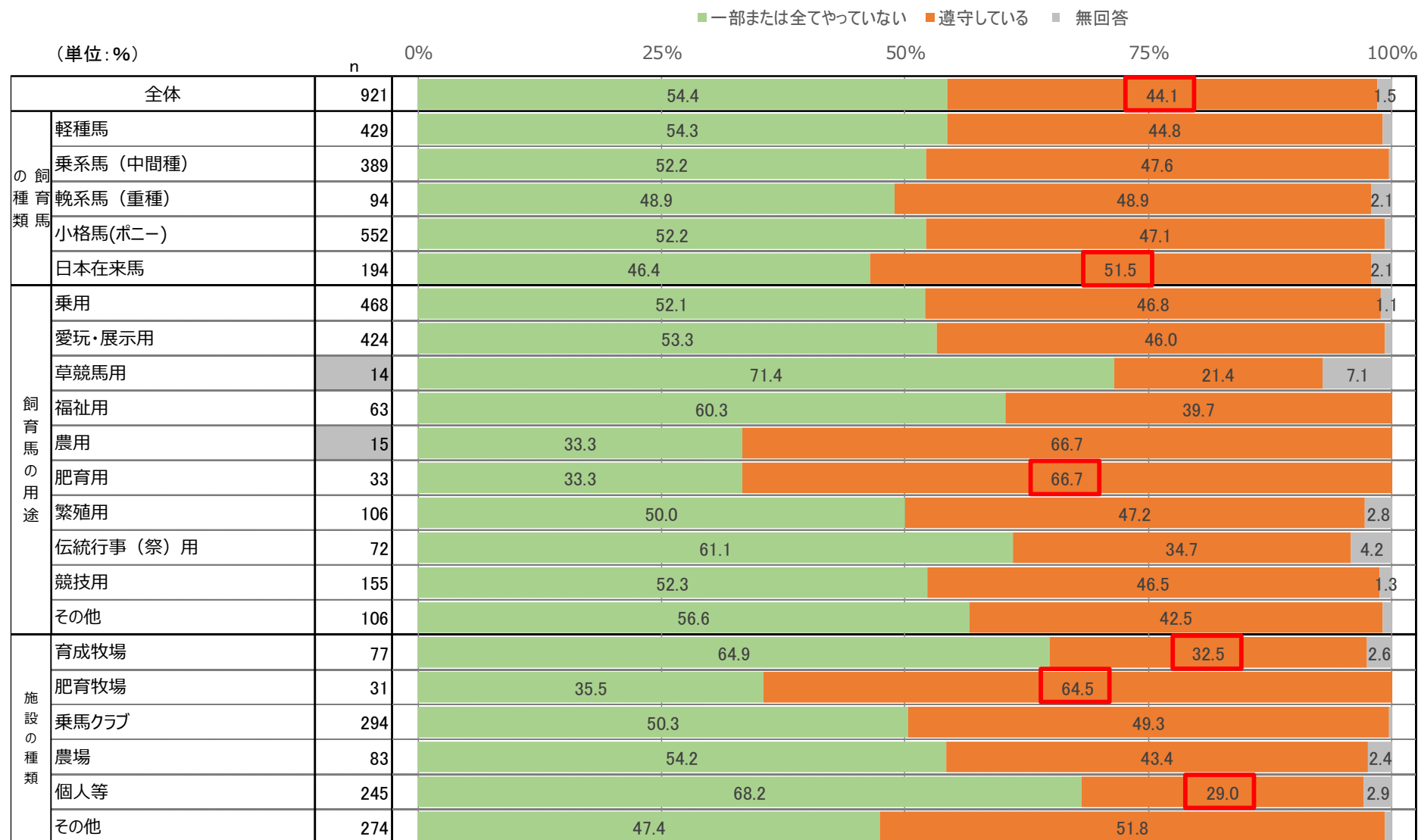
- ・ 衛生管理区域に立ち入った者の氏名・住所・所属・立入り日・目的・消毒実施の有無(車両消毒含む)に関する記録の作成及び1年以上の保管。
- ・ 衛生管理区域に立ち入った者の過去1週間以内の海外滞在の記録作成及び1年以上の保管。  
(滞在国・地域、滞在時の畜産関係施設等への立入り有無)
- ・ 従事者の海外滞在の記録・1年以上の保管。
- ・ 家畜保健衛生所、担当獣医師等からの農場指導の内容及び指導年月日の記録作成及び1年以上の保管。

# 「記録の作成及び管理」の遵守状況

- 全体でみると「遵守している」と回答した方は44%にとどまり、半数にも満たない。
- 種類別では『日本在来馬』が遵守している割合が全体より5pt以上高く52%。
- 用途別では、『肥育用』で「遵守している」と答えた方が全体より10pt以上高い。
- 施設別では、『肥育牧場』の遵守率が高い一方で、『育成牧場』『個人等』については遵守率が3割前後で低め。

Q7. 「記録の作成及び管理」について、あなたの飼育馬施設での現状の対応をお答えください。（○はひとつ）

n=全体（単位：%）



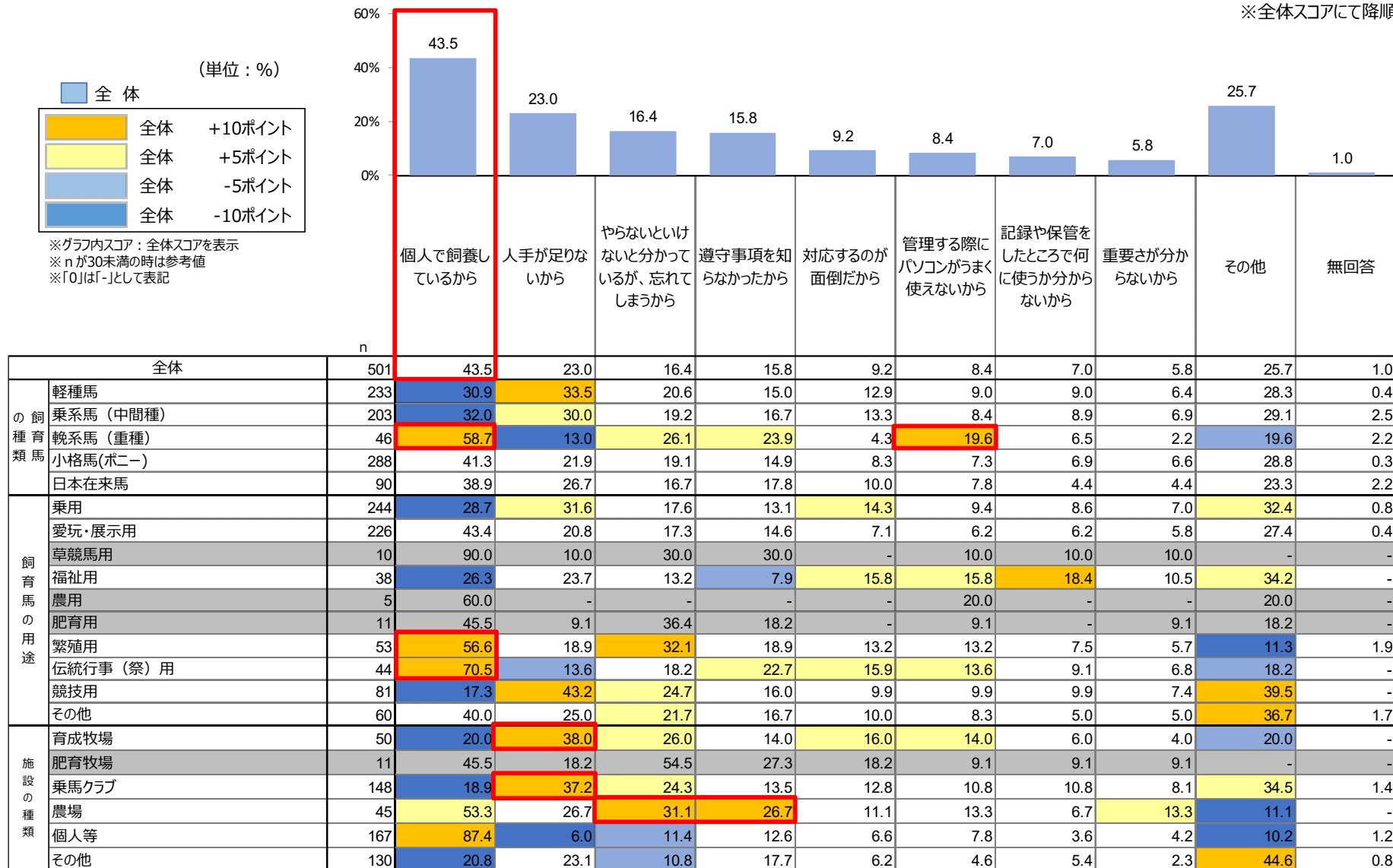
※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 「記録の作成及び管理」を遵守していない理由

- 全体でみると「個人で飼養しているから」が44%で最多。
- 種類別でみると、『輓系馬（重種）』は「個人で飼養しているから」「管理する際にパソコンがうまく使えないから」が全体より10pt以上高い。
- 用途別でみると、『繁殖用』『伝統行事（祭）用』については「個人で飼養しているから」のスコアが全体より10pt以上高い。
- 施設別でみると、『育成牧場』『乗馬クラブ』は「個人で飼養しているから」が低く、「人手が足りないから」が全体より10pt以上高く特徴的。また、『農場』においては、「忘れてしまう」「遵守事項を知らなかった」のスコアが高い。

Q8. Q7で一部または全てやっていないと回答した方にうかがいます。遵守していない理由を以下の中からお選びください。（○はいくつでも）

n=一部または全てやっていない方（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



---

## 3.車両への消毒・靴への消毒

### ■ 以下を提示して遵守有無を聴取

[衛生管理区域における入退出車両への消毒・厩舎に入る際の靴への消毒]

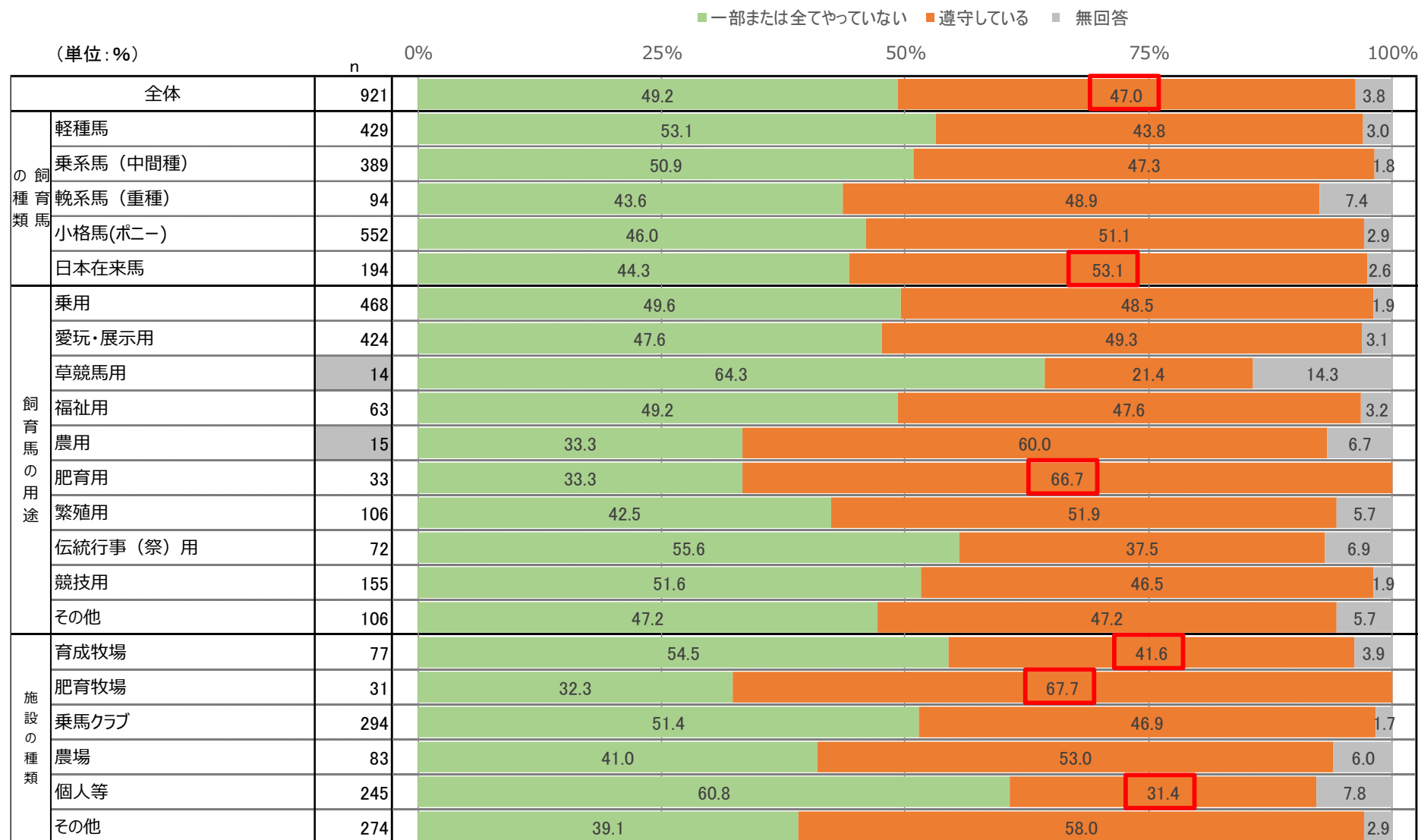
- ・ 衛生管理区域へ出入りする車両への消毒
- ・ 厩舎ごとの専用の靴を設置し、厩舎に入る者に対する着用義務付け又は靴の消毒

# 「衛生管理区域における入退出車両の消毒・靴への消毒」の遵守状況

- 全体でみると「遵守している」と回答した方は47%にとどまる。
- 種類別でみると、「記録の作成及び管理」と同様、『日本在来馬』が遵守している割合がやや高い傾向。
- 用途別についても「記録の作成及び管理」と同様で『肥育用』で「遵守している」と答えた方が全体より10pt以上高い。
- 施設別についても『肥育牧場』の遵守率が全体より10pt以上高く、一方で、『育成牧場』『個人等』は遵守率が低め。

Q9. 「衛生管理区域における入退出車両への消毒・厩舎に入る際の靴への消毒」について、あなたの飼育馬施設での現状の対応をお答えください。(〇はひとつ)

n=全体 (単位: %)



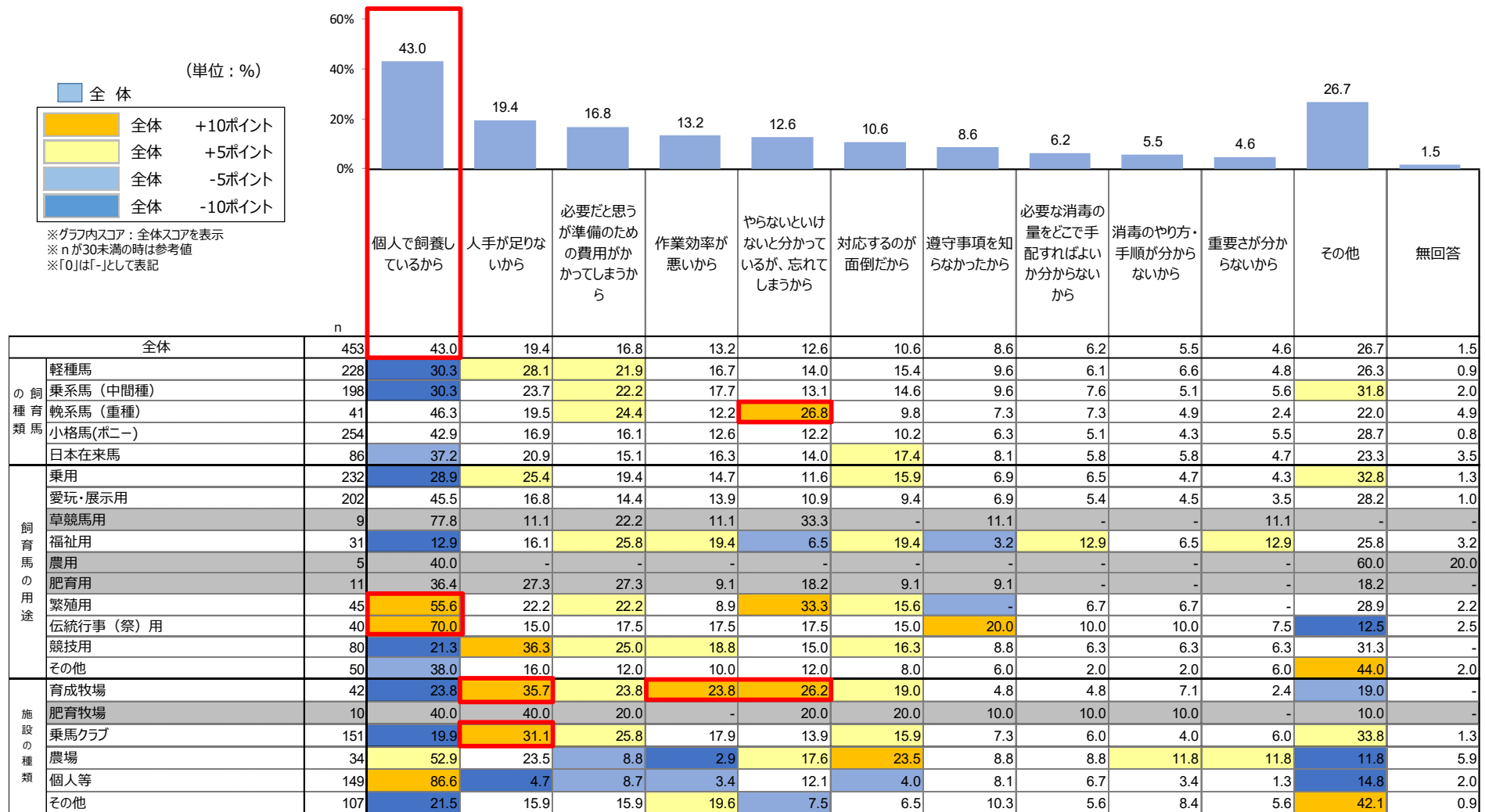
※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 「衛生管理区域における入退出車両の消毒・靴への消毒」を遵守していない理由

- 全体でみると「個人で飼養しているから」が43%で最もスコアが高い。
  - 種類別では、『輓系馬（重種）』において「分かっているが、忘れてしまうから」が全体より10pt以上高い。
  - 用途別では、『繁殖用』『伝統行事（祭）用』で「個人で飼養しているから」のスコアが全体より10pt以上高い。
  - 施設別にみると、『育成牧場』『乗馬クラブ』において「人手が足りないから」と回答した方が全体より10pt以上高い。
- また、『育成牧場』においては、人手不足に加えて、「作業効率が悪い」「分かっているが、忘れてしまうから」のスコアが高い傾向にある。

Q10. Q9で一部または全てやっていないと回答した方にうかがいます。遵守していない理由を以下の中からお選びください。（○はいくつでも）

n＝一部または全てやっていない方（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



## 4. マニュアル作成・周知徹底

### ■ 以下を提示して遵守有無を聴取

#### [飼育管理マニュアルの作成及び従事者や外部事業者への周知徹底]

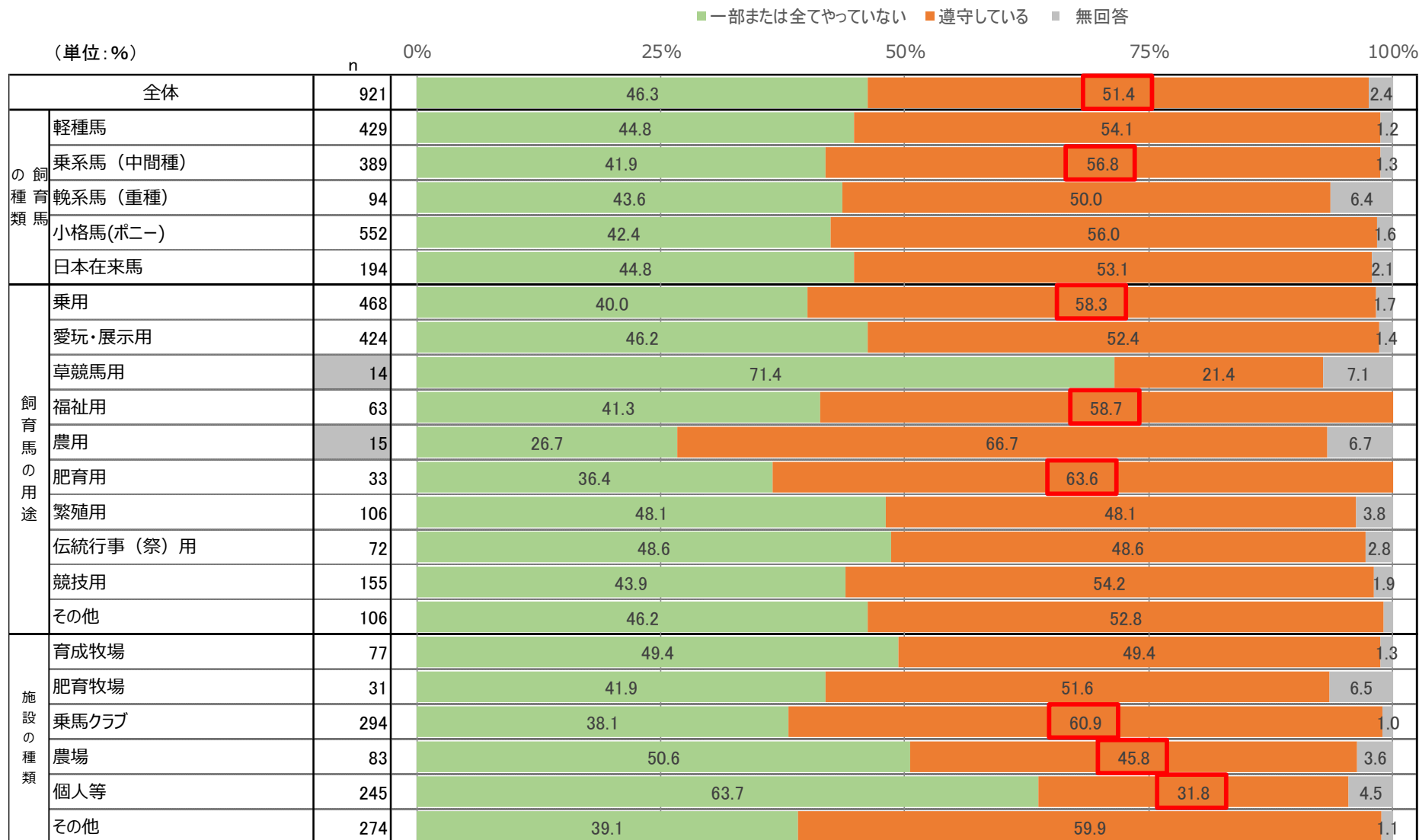
- ・ 獣医師等の専門家の意見を反映させた飼養衛生管理マニュアルの作成
- ・ 関係者が飼養衛生管理マニュアルを遵守するために必要な措置  
(当該マニュアル冊子配布、看板の設置 など)

# 「飼育管理マニュアルの作成及び周知徹底」の遵守状況

- 全体でみると「遵守している」と回答した方は51%で約半数を占める。
- 種類別では『乗系馬（中間種）』が遵守している割合がやや高い傾向。
- 用途別については『乗用』『福祉用』『肥育用』で「遵守している」と答えた方が全体より5pt以上高い。
- 施設別については『乗馬クラブ』の遵守率が全体より約10pt高く、『農場』『個人等』については遵守率が全体より5pt以上低い。

Q11. 「飼育管理マニュアルの作成及び従事者や外部事業者への周知徹底」について、あなたの飼育馬施設での現状の対応をお答えください。（〇はひとつ）

n=全体（単位：％）



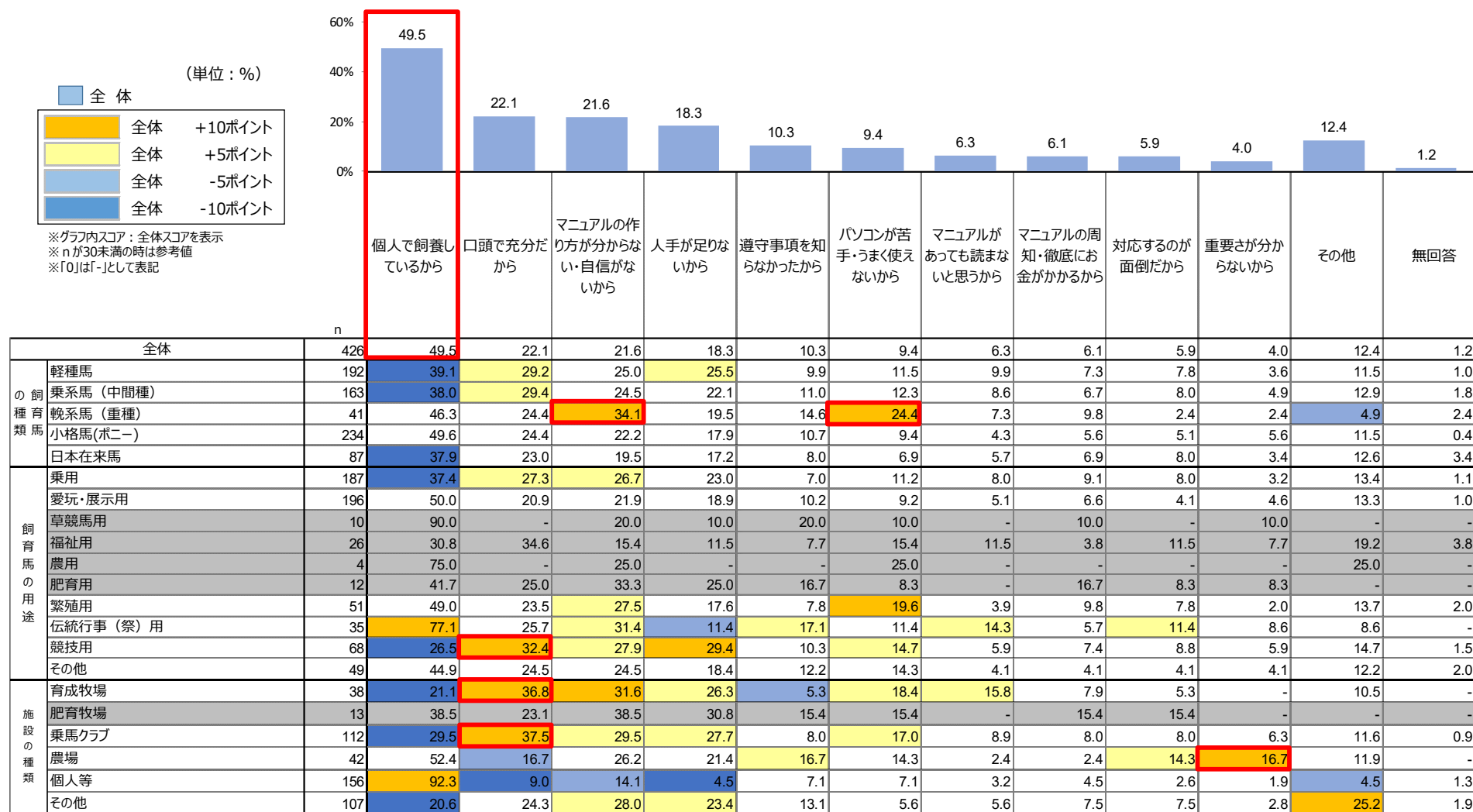
※nが30未満の時は参考値 ※1%未満は数値非表示

# 「飼育管理マニュアルの作成及び周知徹底」を遵守していない理由

- 全体でみると「個人で飼養しているから」が50%で最もスコアが高い。
- 種別『乗系馬（重種）』で「マニュアルの作り方が分からない・自信がない」「パソコンが苦手・うまく使えないから」が全体より10pt以上高い。
- 用途別では、『競技用』において「口頭で充分だから」のスコアが全体より10pt以上高い。
- 施設別にみると、『育成牧場』『乗馬クラブ』において「口頭で充分だから」と回答した方が全体より10pt以上高い。また、『農場』においては、「重要さが分からない」のスコアが全体より10pt以上高い。

Q12. Q11で一部または全てやっていないと回答した方にうかがいます。遵守していない理由を以下の中からお選びください。（〇はいくつでも）

n = 一部または全てやっていない方（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



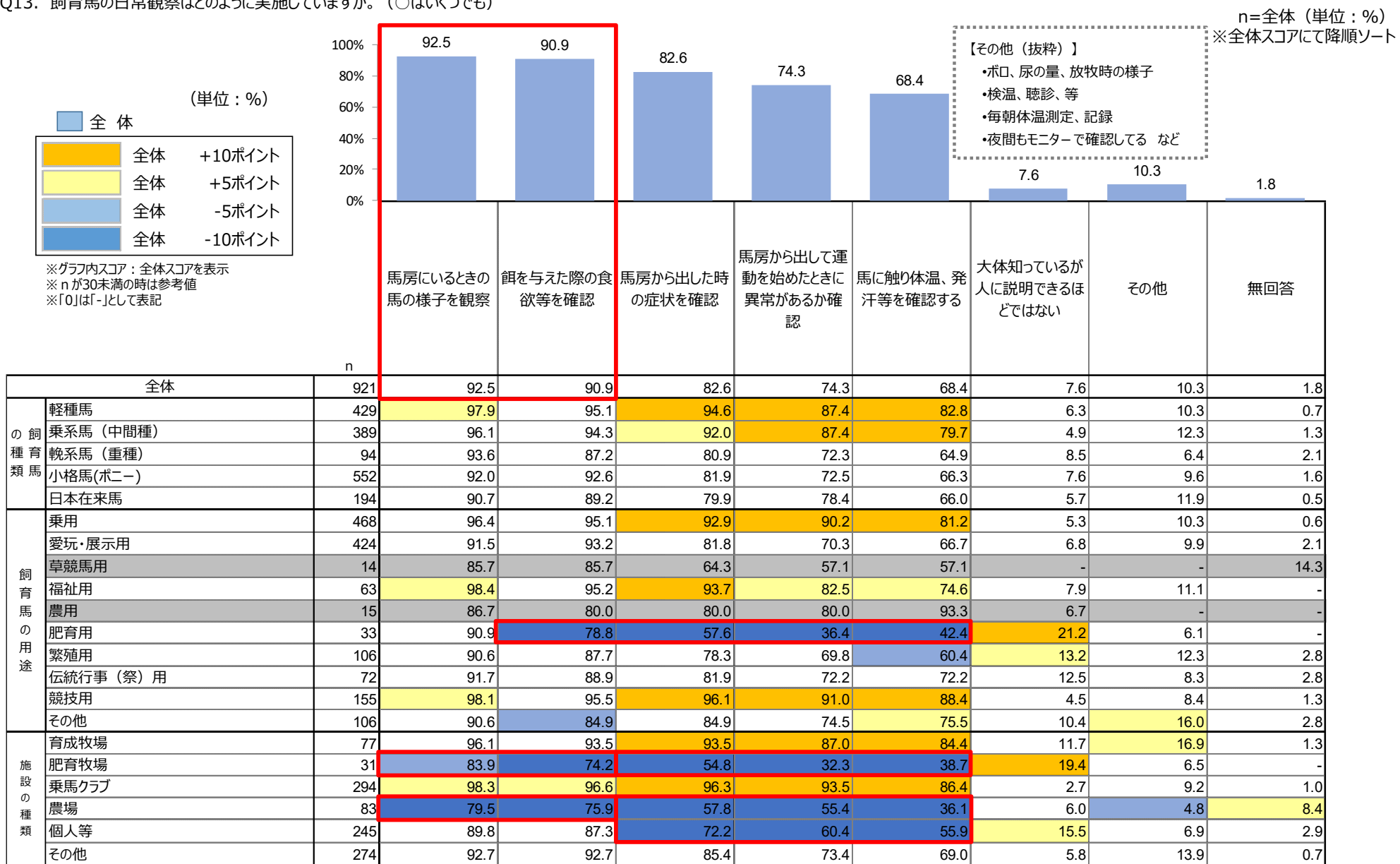
---

## 5. 飼育馬の感染症予防対策の状況

# 飼育馬の日常観察の実施方法

- 飼育馬の日常観察は、「馬房にいるときの馬の様子」が93%、「餌を与えた際の食欲等」が91%で高い。
- 用途別にみると、『肥育用』は、『乗用』『競技用』などに比べて、全体にスコアが低く、一部日常観察が行き届いていない様子もうかがえる。
- 施設別にみると、『肥育牧場』『農場』『個人用』では「馬房から出した際に行う確認」や「実際に馬に触っての確認」は全体スコアより10pt以上低い。『肥育牧場』『農場』では「馬房にいるときの馬の様子」「餌を与えた際の食欲等」のスコアも低く、行き届いていない様子である。

Q13. 飼育馬の日常観察はどのように実施していますか。(○はいくつでも)

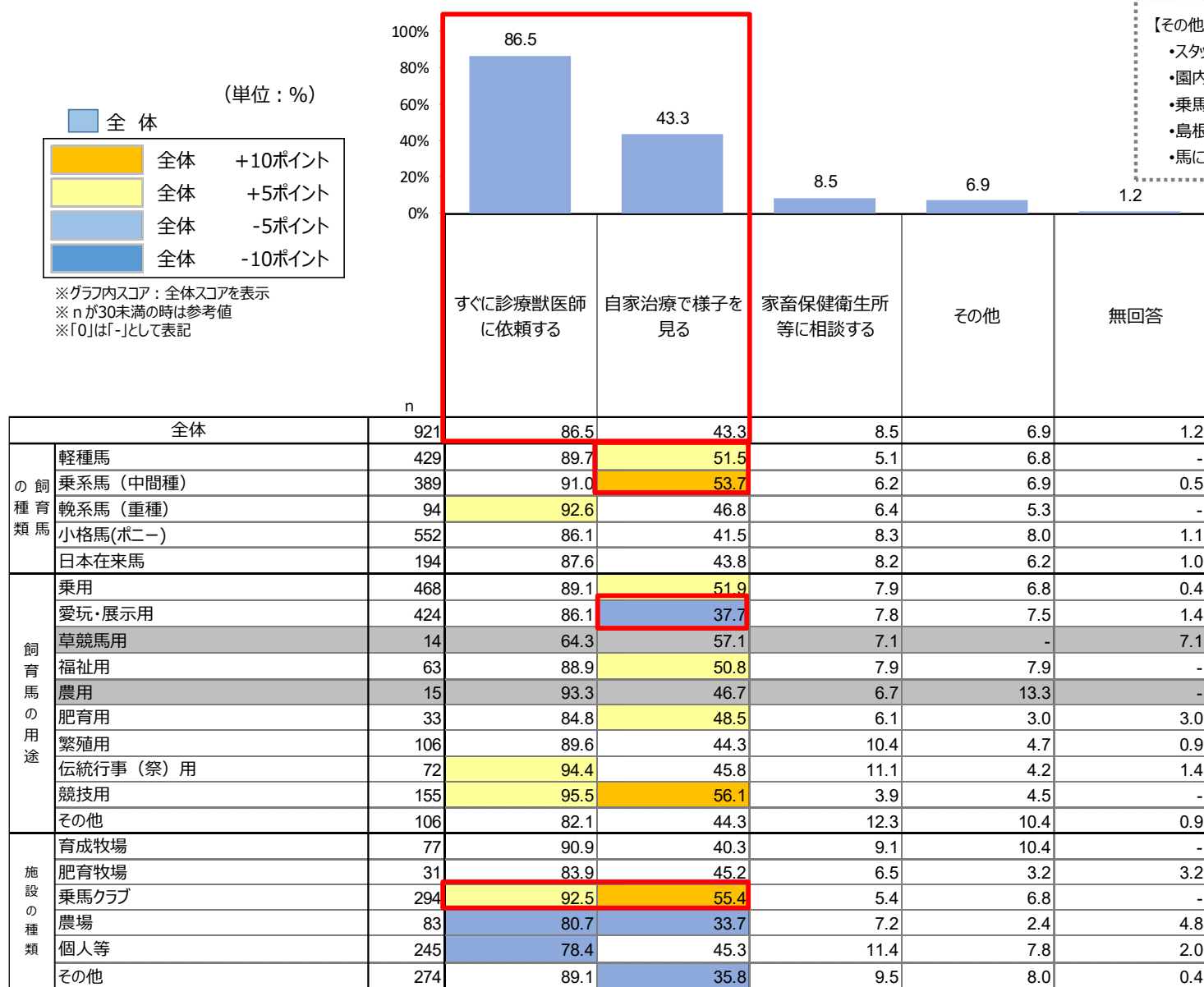


# 飼育馬に異常が認められた場合の対応方法

- 飼育馬に異常が認められた場合の対応方法は、「すぐに診療獣医師に依頼する」が87%。次いで「自家治療で様子を見る」が43%で続く。
- 種類別にみると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』では、「自家治療で様子を見る」方がやや多い傾向。
- 用途別では、『愛玩・展示用』において「自家治療で様子を見る」が全体より5pt以上低い。
- 施設別では、『乗馬クラブ』では「診療獣医師に依頼」「自家治療で様子を見る」の割合が他施設に比べて高い。

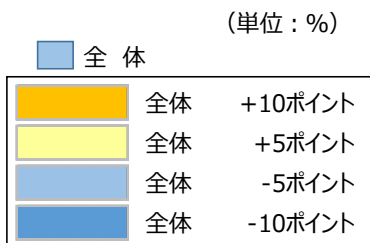
Q14. 飼育馬に異常が認められた場合、どのように対応していますか。（○はいくつでも）

n=全体（単位：%）  
※全体スコアにて降順ソート



【その他（抜粋）】

- ・スタッフで相談
- ・園内獣医師に相談する
- ・乗馬クラブの先生に相談する
- ・島根県畜産技術センターに相談する
- ・馬に詳しい知人に相談する など



※グラフ内スコア：全体スコアを表示  
※nが30未満の時は参考値  
※「0」は「-」として表記

---

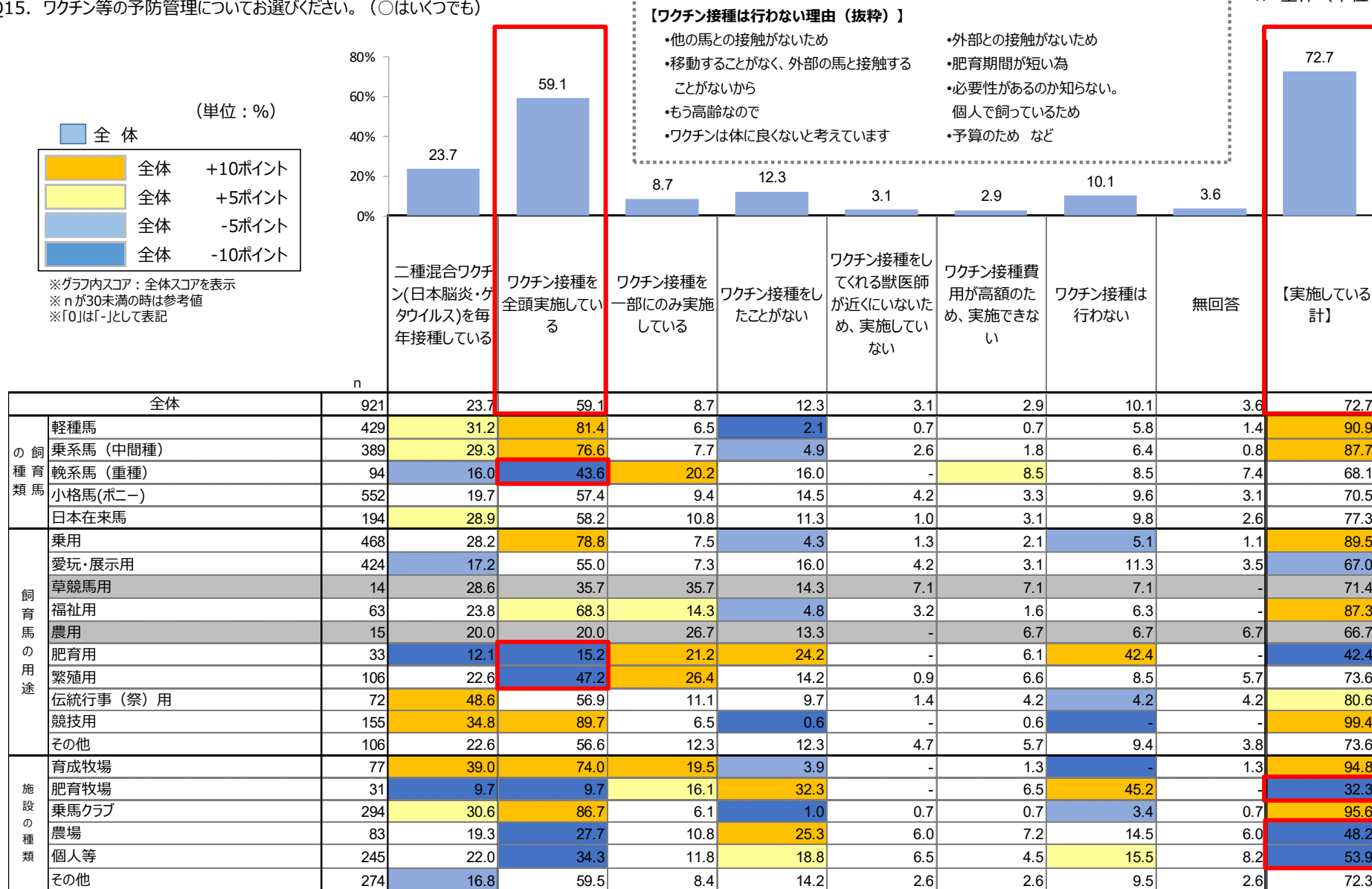
## 6. ワクチン接種状況と講習会に期待すること

# ワクチン等の予防管理の実態

- ワクチン等の予防管理は、「ワクチン接種を全頭実施」が59%。「ワクチン接種を実施している計」は73%。
- 種類別にみると、『挽系馬（重種）』の「ワクチン接種を全頭実施している」が44%と特に低い。
- 用途別では、『肥育用』『繁殖用』で「ワクチン接種を全頭実施している」が全体より10pt以上低い。
- 施設別にみると、『肥育牧場』『農場』『個人等』の「ワクチン接種を実施している計」が全体より10pt以上低い。

Q15. ワクチン等の予防管理についてお選びください。（○はいくつでも）

n=全体（単位：%）



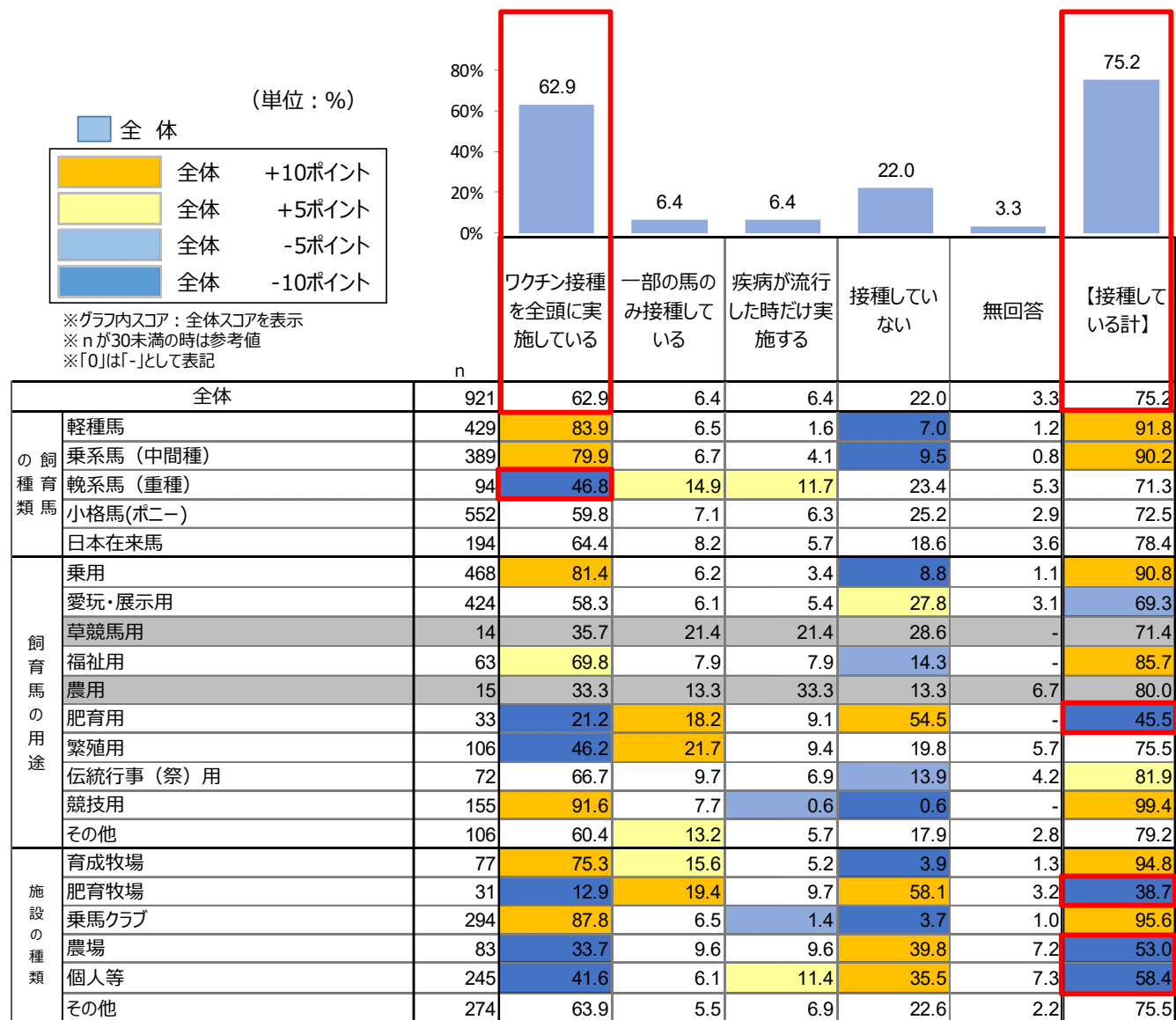
\*実施している計 = 「二種混合ワクチン(日本脳炎・ゲタウイルス)を毎年接種している」+「ワクチン接種を全頭実施している」+「ワクチン接種を一部にのみ実施している」

# 馬インフルエンザワクチンの接種状況

- 馬インフルエンザの接種状況を見ると、「ワクチン接種を全頭を実施している」は63%。「ワクチンを接種している計」では75%。
- 種類別にみると、『純系馬（重種）』の「ワクチン接種を全頭を実施している」が47%と全体より10pt以上低い。
- 用途別では、『肥育用』の「ワクチン接種率（接種している計）」は46%と特に低い。
- 施設別にみると、『肥育牧場』『農場』『個人等』の「ワクチンを接種している計」が全体より10pt以上低い。

Q16. 馬インフルエンザワクチンの接種についてお選びください。（○はいくつでも）

n=全体（単位：%）



- 【一部の馬のみ接種している（抜粋）】
- 1頭のみ衰弱しているため実施していない
  - ポニーのみ接種を行っていない
  - 協議会やイベント参加の馬
  - 重種のみ
  - 妊娠馬除外
  - 牧場で産まれた時のみ など

- 【接種していない理由（抜粋）】
- 1頭しか、飼育していないため
  - どこに頼んで良いか解らない
  - ワクチンがあるのを知らなかった
  - 会社の許可が出ていないため
  - 重要性を理解してもらえず、接種させてもらえない
  - 接種してくれる獣医師がいない
  - 点滴時 暴れたことがあったこと
  - 1頭だけの飼育で感染リスクが少ない為
  - 馬の移動、新たな導入等行わない
  - 肥育期間が短い為
  - 費用が高額なため など

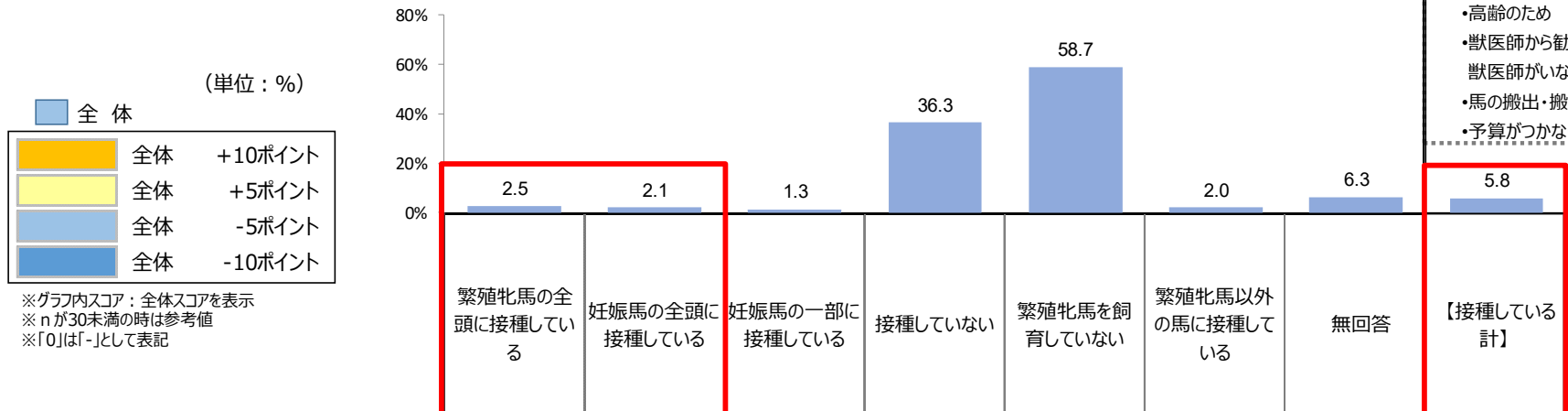
※接種している計 = 「ワクチン接種を全頭を実施している」+「一部の馬のみ接種している」+「疾病が流行した時だけ実施する」

# 馬鼻肺炎ワクチン(流産予防)の接種状況

- 頭数や接種時期に関わらず、馬鼻肺炎の「ワクチンを接種している」と回答した方は6%。「繁殖牝馬の全頭に接種している」方は2.5%、「妊娠馬の全頭に接種している」方は2.1%という結果。繁殖牝馬への馬鼻肺炎ワクチン接種は浸透していない様子がうかがえる。n=全体 (単位: %)
- 用途別でみると、『繁殖用』では【接種している計】が38%と高め。
- 施設別でみると、『育成牧場』『肥育牧場』では「接種している計」が10pt以上高い。

Q17. 馬鼻肺炎ワクチン(流産予防)についてお選びください。(○はいくつでも)

- 【接種していない理由(抜粋)】
- ・繁殖目的ではないため
  - ・1頭しかない
  - ・高齢のため
  - ・獣医師から勧められていない/  
獣医師がいない
  - ・馬の搬出・搬入がないため
  - ・予算がつかないため など



※グラフ内スコア: 全体スコアを表示  
 ※nが30未満の時は参考値  
 ※「0」は「-」として表記

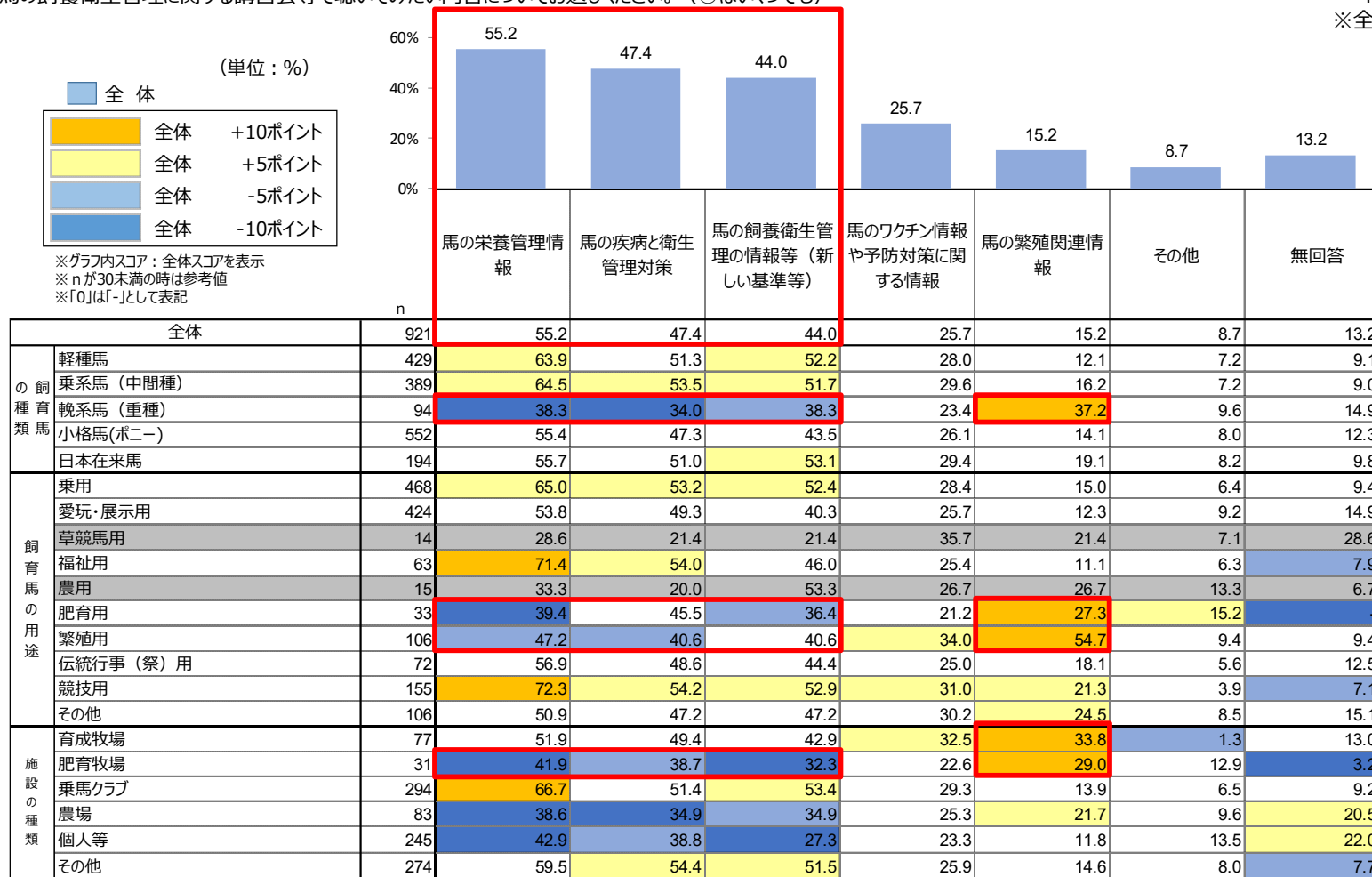
全体		n	繁殖牝馬の全頭に接種している	妊娠馬の全頭に接種している	妊娠馬の一部に接種している	接種していない	繁殖牝馬を飼育していない	繁殖牝馬以外の馬に接種している	無回答	【接種している計】
の飼育種類馬	全体	921	2.5	2.1	1.3	36.3	58.7	2.0	6.3	5.8
	軽種馬	429	3.7	2.3	1.4	31.2	66.0	3.3	4.7	7.5
	乗系馬(中間種)	389	2.6	2.1	1.5	33.4	66.8	2.1	3.3	6.2
	軌系馬(重種)	94	5.3	8.5	4.3	42.6	36.2	4.3	8.5	18.1
	小格馬(ポニー)	552	2.0	1.8	0.9	38.2	60.1	2.2	4.2	4.7
	日本在来馬	194	2.1	1.5	2.6	39.2	53.1	1.0	6.7	5.7
飼育馬の用途	乗用	468	2.1	1.9	1.3	33.3	69.0	2.1	3.4	5.3
	愛玩・展示用	424	1.7	1.4	0.9	38.7	59.0	1.7	4.5	4.0
	草競馬用	14	7.1	-	-	28.6	42.9	7.1	14.3	7.1
	福祉用	63	3.2	3.2	-	28.6	69.8	3.2	3.2	6.3
	農用	15	13.3	6.7	6.7	33.3	13.3	-	26.7	26.7
	肥育用	33	15.2	-	-	48.5	30.3	9.1	3.0	15.2
	繁殖用	106	15.1	16.0	7.5	51.9	2.8	3.8	5.7	37.7
	伝統行事(祭)用	72	1.4	6.9	1.4	27.8	50.0	1.4	13.9	9.7
	競技用	155	7.1	5.2	2.6	32.9	61.9	3.9	3.9	14.8
	その他	106	3.8	5.7	2.8	44.3	49.1	4.7	3.8	11.3
施設の種類	育成牧場	77	14.3	7.8	5.2	31.2	39.0	10.4	5.2	26.0
	肥育牧場	31	16.1	-	3.2	35.5	32.3	6.5	6.5	19.4
	乗馬クラブ	294	1.7	2.4	1.0	31.3	73.1	2.4	3.4	5.1
	農場	83	4.8	1.2	3.6	49.4	30.1	1.2	12.0	9.6
	個人等	245	0.4	2.4	1.2	42.0	46.5	0.4	12.7	4.1
	その他	274	1.1	0.7	0.4	35.8	66.1	2.6	2.6	2.2

# 馬の飼養衛生管理に関する講習会等で聴いてみたい内容

- 馬の飼養衛生管理に関する講習会等で希望する内容の上位は、「馬の栄養管理情報」が55%、「馬の疾病と衛生管理対策」が47%、「馬の飼養衛生管理の情報等」44%であった。
- 種類別『軽系馬（重種）』、用途別『肥育用』『繁殖用』、施設別『育成牧場』『肥育牧場』で「繁殖関連情報」のスコアが10pt以上高い。逆に「馬の栄養管理情報」「馬の疾病と栄養管理対策」「馬の飼養衛生管理の情報等」など衛生管理に関してはの関心が低い様子。

Q18. あなたが、馬の飼養衛生管理に関する講習会等で聴いてみたい内容についてお選びください。（○はいくつでも）

n=全体（単位：%）  
※全体スコアにて降順ソート



## 【その他（抜粋）】

- ①馬の運動（騎乗等）の基礎的な方法 ②疾病（せん痛、熱中症、蹄やあしの病気）についての基礎知識とその対応
- ワクチンを接種してくれる獣医師を紹介してほしい。
- 夏の暑さ対策・虫対策、馬の終生飼養（高齢馬の（25才以上の）適性な飼養方法）
- 高齢馬の注意点、高温時（夏場）の対策、アレルギー対応への対策（特に虫さされ）

- 削蹄のことや蹄の疾患、歯の疾患他の病気について。
- 装蹄師による蹄の管理講習
- 長生きして欲しいのでストレスを感じない心地良い生活を送れる飼育の講習会
- 蹄病について、飼料給与と蹄葉炎の関係
- 馬感染症発生時の日本中のオーナーへの迅速な連絡網について など

---

## 7.2016年度～2023年度 頭数・用途・導入元・年齢把握

- 「乗系馬」「輓系馬」「小格馬」「日本在来馬」が全体に増加傾向にある。  
 (「軽種馬」は2022年度に2500頭飼育している回答者がいたため、その回答者を除いた2022年度の「軽種馬」は45%)
- 日本在来馬の飼育割合は「北海道和種」が昨年に比べ2割ほど増加(2023年度は1回答者あたりの飼育頭数が多いことが影響)。  
 逆に「御崎馬」以外は減少傾向にある。品種の内訳をみても、「北海道和種」が約8割を占め、「木曽馬」「トカラ馬」が続くという傾向には変わりはない。

Q4-1~2. 飼育馬の種類

(n;回答頭数ベース) (単位: %)

n		軽種馬	乗系馬 (中間種)	輓系馬 (重種)	小格馬 (ポニー)	日本在来馬	その他
2023年度 全体	13,937	49.9	18.2	11.3	11.9	8.8	*
2022年度 全体	15,158	61.1	16.1	8.7	9.4	4.7	*
2021年度 全体	14,537	51.7	17.4	15.6	10.4	5.0	*
2020年度 全体	14,787	60.6	17.4	5.7	11.4	4.9	*
2019年度 全体	13,271	43.8	14.1	23.6	9.9	3.7	4.9
2018年度 全体	8,611	41.9	17.0	19.5	15.2	5.2	1.2
2016・2017年度 全体	20,070	51.4	14.9	16.2	11.5	4.3	1.7

■各年度1位のスコア ■各年度2位のスコア ■各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q4-1. 日本在来馬の品種

(n;日本在来馬・回答頭数ベース) (単位: %)

n		①北海道和種	②木曽馬	③野間馬	④対州馬	⑤御崎馬	⑥トカラ馬	⑦宮古馬	⑧与那国馬	その他	無回答
2023年度 全体	1,220	78.8	7.1	0.9	4.4	0.7	6.1	-	2.0	*	*
2022年度 全体	712	59.0	13.3	2.5	8.3	0.6	10.0	1.1	4.8	*	0.4
2021年度 全体	725	64.3	13.5	0.6	7.6	0.6	8.3	-	3.0	*	2.2
2020年度 全体	729	58.4	14.8	0.4	8.1	0.4	8.8	-	6.4	*	2.6
2019年度 全体	486	66.0	15.2	0.6	1.4	0.6	15.6	-	0.4	*	*
2018年度 全体	451	50.1	10.6	0.4	11.1	-	0.7	-	4.4	22.6	*
2016・2017年度 全体	854	54.4	13.6	0.8	6.3	0.4	12.1	-	3.2	9.3	*

■各年度1位のスコア ■各年度2位のスコア ■各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

- 「肥育用」の割合が昨年に比べて増加している。TOP3については2020年度、2021年度と同傾向である。
- 導入元についても大きな傾向の変化は無いが、昨年度に比べ、「中央競馬」「公営（地方）競馬」「輸入」がやや増加傾向である。

Q4-3. 飼育馬の用途（過去1年間）

（n；回答頭数ベース）（単位：％）

n		乗用	愛玩・展示用	草競馬用	福祉用	農用	肥育用	繁殖用	伝統行事（祭）用	競技用	その他
2023年度 全体	15,090	47.6	7.7	0.8	1.3	0.4	↑15.0	7.1	1.6	9.4	9.1
2022年度 全体	16,595	44.0	6.6	0.4	0.9	0.4	11.1	9.6	0.9	10.3	15.8
2021年度 全体	15,022	48.7	7.9	1.0	1.2	0.2	20.0	4.1	0.9	9.8	6.2
2020年度 全体	14,563	48.9	8.8	0.2	1.2	0.2	16.1	5.8	1.1	9.0	8.8
2019年度 全体	13,786	45.2	7.5	0.2	0.6	0.1	30.5	3.9	1.2	1.2	9.7
2018年度 全体	8,937	57.8	10.5	0.8	1.2	1.2	18.9	4.7	0.8	*	4.0
2016・2017年度 全体	20,070	49.6	7.9	0.5	0.7	0.1	19.7	7.7	*	*	13.8

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q5. 飼育馬の導入元（○はいくつでも）

n=全体（単位：％）

n		中央競馬	公営（地方）競馬	乗馬クラブ	家畜市場	育成牧場	輸入	自家生産	その他	無回答
2023年度 全体	921	22.6	23.7	43.8	13.0	16.6	15.0	21.6	22.7	1.5
2022年度 全体	885	19.5	21.8	42.0	13.2	15.5	12.1	21.8	23.7	1.9
2021年度 全体	969	21.3	23.3	41.5	12.6	17.0	14.7	19.4	23.7	2.6
2020年度 全体	1,023	24.5	24.5	41.7	15.2	14.7	14.8	20.0	24.3	2.9
2019年度 全体	746	20.6	21.2	40.6	14.6	20.4	13.3	22.0	23.1	2.4
2018年度 全体	664	17.6	18.4	40.5	15.5	16.3	13.9	21.7	23.6	1.2
2016・2017年度 全体	2,129	10.2	11.2	22.3	9.6	10.9	7.5	13.2	15.1	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

➤ 飼育馬の年齢の把握実態も例年同傾向である様子が見えてくる。

Q6. 飼育馬の年齢把握状況（○はいくつでも）

n=全体（単位：％）

n		年月日等の記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している	年齢条件の記録があれば把握できるが、導入馬等で記録のない馬は把握していない	年齢は把握していない	年齢の記録のない馬については、歯型等から推定し把握している	無回答
2023年度 全体	921	85.8	9.6	5.6	5.8	0.7
2022年度 全体	885	84.3	9.6	5.6	5.4	1.0
2021年度 全体	969	83.0	12.1	4.4	5.4	1.9
2020年度 全体	1,023	83.6	9.8	5.9	6.1	2.2
2019年度 全体	746	82.3	12.6	7.0	9.4	1.7
2018年度 全体	664	83.0	10.5	8.0	6.8	0.8
2016・2017年度 全体	*	*	*	*	*	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの